

社会科学学習指導案

学 級 2年2組(男子13名、女子15名、計28名)

指導者 教諭 佐々木 悟

1 主題名(単元名)「第3章日本の諸地域 第4節中部地方 ～活発な産業を支える人々の暮らし～」 東京書籍

2 単元の指導目標

- (1) 産業を中核とした考察から中部地方の地域的特色に対する関心を高め、気候や自然環境、人々の生活と関連させながら意欲的に追究しようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 中部地方を構成している3つの地域の産業について、その違いや盛んになっている理由について考察し、適切に表現することができる。【社会的な思考・判断・表現】
- (3) 中部地方に関する様々な資料を収集し、情報を適切に選択して、中部地方の3つの地域の特色と変化を読み取ったり、図表にまとめている。【資料活用の技能】
- (4) 産業を中核とした考察をもとに中部地方の地域的特色について理解し、その知識を身につけている。
【社会的事象についての知識・理解】

3 指導計画(6時間) 単元課題：中部地方の各地で特色ある産業が見られるのはなぜか。

	学 習 内 容	学 習 課 題
1	中部地方のあらまし(1)	中部地方はどのような地方なのだろうか。
2	中部地方のあらまし(2)	中部地方はどのような地方なのだろうか
3	東海地方の工業	なぜ東海地方では自動車工業が盛んなのか
4	中央高地の産業	なぜ中央高地では果樹栽培や電気機械工業が盛んなのか。
5	北陸地方の産業	なぜ北陸地方では伝統産業が盛んなのか。
6	中部地方の特色の考察	中部地方の各地で特色ある産業が見られるのはなぜか。

4 本時について

(1) 主 題

現在東海地方では、輸送機械工業が発達しており、現在工業製品出荷額は日本一となっている。

本時では、①原料や部品、製品を運ぶ空港や港、高速道路が整備されていること、②多数の自動車関連工場に必要な労働力を確保できる大都市が存在していること、③東海地方には組立工場だけでなく関連工場が多く立地していることの計3つの視点からせまる。

(2) 指導目標

東海地方の工業について関心を高めるとともに、輸送機械工業が盛んなことについて地図やグラフなどの諸資料を活用して説明することができる。

(3) 評価規準

観 点	評価内容(評価方法)
関・意・態	自動車工業が盛んな理由について、諸資料を活用しながら意欲的に追究をしている(行動観察、ワークシート)。
思・判・表	自動車工業が盛んな理由を交通網、人口、立地の計3点から説明できる(ワークシート)。

(4) 授業づくりのポイント

①「課題設定」

- ・既習事項をふまえた上で、疑問を抱かせるような資料や事項を提示して課題設定につなげる。
- ・学習内容の明確化、そして生徒が自ら考えて見通しを持たせるために「なぜ」から始まる課題を設定する。

②「まとめ・振り返り」

- ・1時間の学習の流れが把握しやすいような板書、学習プリントを作成する。
- ・他者の意見や考えを把握できるように、意見を発表できる場を設定しより深い理解につなげるようにする。
- ・課題に対するまとめを自分なりの言葉で表現できるように、時間を十分に確保する。

(4) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動 (◇主な発問)	▲指導上の留意点	◎評 価
導入 5分	1. 前時の復習。 2. 学習課題を設定する。 ◇輸送機械とは具体的に何か。 ◇出荷額割合から気づいたことは何か。	▲単元課題と輸送機械工業が盛んであることを確認する。 ▲東海地方の県の割合に注目させて、その大きさに注目させたい。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ東海地方では自動車工業が盛んなのか。</div>			
展開 35分	3. 課題に対する予想を考える。 (予想される反応) ・交通網が発達しているから。 ・働く人を確保しやすいから。 ・有名自動車メーカーがあるから。 4. 予想を発表する。 5. 資料から考察をする。 ◇交通網に注目して、地図から読み取れることは何か。 (予想される反応) ・高速道路の近くに工場がある。 ・港や鉄道がある。 ◇東海地方の都市の人口から読み取れることは何か。 (予想される反応) ・人口、生産年齢人口が多い。 ・生産年齢人口の割合が高い。 ◇自動車はどれくらいの部品で作られているのか。またどのような方法で作られているのか。 ◇地図から読み取れることは何か。 (予想される反応) ・組立工場の近くに、部品工場がある。 ・部品工場で多くの人働いている。	▲前時までに学んだ地方や1年生での学習内容を参考にしよう指示する。 ▲予想を板書する。予想を立てられなかった生徒にも見通しを持たせる。 ▲必要な資料についても考えさせたい。 ▲各地方や世界とのつながりも意識させたい。 ▲主要な都市の人口から、工場で働く人を確保しやすいことを確認する。 ▲小学校での既習事項を確認する。 ▲自動車組立工場内の様子から労働者の数に疑問を持たせる。 ▲自動車生産には多くの人関わっていることに気付かせたい。 ▲歴史的背景として綿工業が盛んな地域であったことからその技術が活かされていることに触れる。	◎行動観察
終末 10分	6. 本時の課題についてまとめを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 東海地方では、交通網が発達していて部品や製品が運びやすく、生産年齢人口も多いので労働者も確保しやすい。また組立工場だけでなく部品工場も多く立地しているため自動車工業が盛んである。 </div> 7. 本時を振り返る。	▲視点を参考に自分の言葉でまとめるよう指示し、その後全体で共有する。 ▲授業の振り返りを記入しよう指示。	◎ワークシート

※概ね満足できると判断できる状況【B】

盛んな理由を①交通網の発達、②人口(労働力の確保)、③多くの自動車関連工場(下請工場)が立地しているという3つの視点をもとに自分の言葉でまとめることができている。